2026～2027　SHIKI WEEKLY

国際ロータリー　第２５７０地区　第２グループ

志木ロータリークラブ

持続可能なインパクトを生み出そう

2026-27年度　国際ロータリー　会長　オライン カ・ハキーム・ババロラ　「CREATE LASTING IMPACT」
2026-27年度　第2570地区　　ガバナー　原島　生慈　　「ロータリー活動に誇りを！」
2026-27年度　志木ロータリークラブ　会　長　國分　学　「志木SHIKIプライド」

第２４８４回　例　会　　2026－10－7

◎司　会　　末冨　啓道　副会長
◎点　鐘　　國分　学　　会　長
◎ソング　　君が代･奉仕の理想
◎ソングリーダー　西浦　建貴　副SAA
◎四つのテスト　西浦　建貴　副SAA
◎ゲスト　　小林　篤子　様(読売新聞社東京本社
販売局販売企画調査部　部長)

ソングリーダー･四つのテスト　西浦建貴　副SAA

「会長挨拶」　　会長　國分　学

皆様、こんにちは！

10 月に入り、秋晴れの心地よい季節となってまいりました。本日も会員の皆様のご出席、誠にありがとうございます。

さて、今週月曜日の 10 月 5 日から、今年の「ノーベル賞」の発表が始まりました！

一昨年の平和賞、昨年の生理学・医学賞と化学賞に続く「日本からの 3 年連続受賞」がかかっており、初日の生理学・医学賞をはじめ連日大きな注目を集めています。

人類の平和や科学技術の発展に貢献した研究者たちの情熱には本当に頭が下がる思いですが、世界をより良くしようとするその志は、

まさに私たちが目指すロータリーの奉仕の精神とも深く通じ合っていると感じます。

さて、国際ロータリーが定める 10 月のテーマは「地域社会の経済発展月間」です。

事業主や地域のリーダーが集う私たちロータリアンが、自らのビジネスの活力を高め、雇用の創出や経済循環を通じて地域の発展に貢献していく大切な月間でございます。

そして、10 月におけるロータリーの最も重要な世界的行事といえば、10 月 24 日の「世界ポリオデー（ポリオ根絶の日）」です。

ロータリーが 1985 年に本格始動したポリオ根絶活動により、かつて世界で年間 35 万人以上発生していたポリオ症例は 99%以上削減されました。

今月 16 日には「富士見ロータリークラブとの親睦合同例会」、25 日には我がクラブの重要事業である「川と街をきれいにする運動」、そして 11 月 21 日・22 日には秩父での「地区大会」が控えております。

地域経済の発展を支え、ポリオ根絶や清掃活動などの奉仕に汗を流すこと。この積み重ね

10 月は「地域社会の経済発展月間」/「米山月間」です

こそが未来へ続く「持続可能なインパクト」となり、我がクラブが誇る『志木 SHIKI プライド』の姿であります。

ノーベル賞の科学者たちのように、私たちもこの志木の街から素晴らしい変化と活力を生み出していけるよう、会員一丸となって楽しく手を取り合い、秋の活動を進めてまいりましょう。

それでは、本日の例会も美味しいお食事とともに、有意義な時間にしてまいりたいと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました

「理事会報告」　会長　國分　学

1) 志木市社会福祉協議会特別会員継続依頼について（会費 5,000 円）
2) 岩下悟朗会員の担当委員会所属について（ＳＡＡ・親睦）
   鵜頭誠会員の担当委員所属追加について（出席向上・雑誌・Ｒ情報）
3) 例会変更の件
   ① 川街日時変更　10/24(土)⇒10/25(日)
   ② RC イベント日時変更
   12/19(土)⇒12/20(日)
   ③ 花見例会日時変更
   3/31(水)⇒3/25(木)
   ④ 昼例会場所変更
   2/3(水)埼玉りそな銀行３階に変更
   ⑤ 夜間親睦例会日時変更
   3/10(水)⇒3/11(木)
   ⑥ 昼例会場所変更
   4/7(水)埼玉りそな銀行３階に変更
4) 志木街づくり会社・イベントの際の河童像の装飾について
5) 会員向けクラブ満足度調査アンケート実施について
6) 富士見クラブ合同例会に十文字学園女子大学・星野副学長ご参加
7) 青少年交換留学候補生新井柊君クラブ訪問について 10/28（水）

「幹事報告」　幹事　影山　和良

1．国際ロータリー日本事務局より 10 月のロータリー為替レート＄1＝￥157 受信
2．志木市青少年育成市民会議より秋の非行・薬物乱用防止キャンペーン実施協力依頼受信

○日時：令和 8 年 11 月 29 日（日）
○実施場所：旧村山快哉堂周辺〈志木市民まつり会場〉
○集合：12 時 15 分　旧村山快哉堂

3．志木市観光協会より令和 8 年度市観光協会会費納入依頼受信

「今月の誕生日」親睦活動委員長　高橋　良

4 日　荻野光一会員　14 日　鈴木忍会員
19 日　星野博之会員　19 日　高橋健一郎会員

「誕生日スピーチ」　荻野　光一　会員

誕生日のお祝いをいただき、ありがとうございます。日曜日に 77 歳を迎えました。11 月に心臓の手術を控えているため、最近は夜の外出を控えています。多少の不安はありますが、無事に手術を終えて、また皆さんと元気にお付き合いできればと思います。

出席は会員の義務です。メークアップを忘れずに！　第2グループ各RC　例会日･会場一覧(順不同)
■朝霞RC　毎週(火) 12:30～　埼玉りそな銀行朝霞支店　事務局 048-466-3770

10 月は「地域社会の経済発展月間」/「米山月間」 です

「委員会報告」

●社会奉仕委員会 委員長 白井義尊

本日、赤い羽根共同募金に 41 名の方から募金をしていただきました。ありがとうございました。

また、10 月 25 日（日）に実施する川と街をきれいにする運動に、30 名の方から参加表明いただいております。まだ募集しておりますので、ご参加いただける方はご連絡ください。

●青少年奉仕委員会 委員長 西川和人

11 月 29 日（日）の市民まつりにおいて、志木市青少年育成市民会議による秋の非行・薬物乱用防止キャンペーンとして、啓発物資の配布を行いますので、ご協力をお願いします。

●ロータリー希望の風奨学金委員 西川和人

「風の便り」最新号を本日お配りしましたので、ぜひご一読ください。2 ページ目に奨学生のコメントを掲載しております。ロータリーの友 11 月号に協議会の決算と今後の展望についての記事が掲載されると思いますので併せてご確認いただけますようお願いします。

「卓話者紹介」 清水 和之 会員

本日の卓話者、小林篤子様をご紹介します。所沢市出身で、慶應義塾大学法学部を卒業。ロータリー財団の推薦により英国イースト・

アングリア大学大学院へ留学し、開発学修士課程を修了後、1995 年に読売新聞社へ入社されました。広報部長などを歴任し、現在は東京本社販売局企画調査部長を務めておられます。

「卓　話」

「新聞記者になった私がロータリークラブで学んだこと」 小林　篤子　様

読売新聞社東京本社

販売局販売企画調査部　部長

本日はお招きいただき、ありがとうございます。私は 30 年以上前、2570 地区からご推薦をいただき、ロータリー財団の奨学生としてイギリスの大学院に留学しました。これまで各地のロータリークラブでお話しする機会はありましたが、お世話になった 2570 地区でお話しするのは今回が初めてです。本日は、私とロータリーとの関わり、新聞記者になった理由、そして新聞の魅力と危機についてお話ししたいと思います。

私は埼玉県所沢市で育ち、中学生の頃から海外留学に憧れていました。高校 2 年生のとき、交換留学制度を利用してオーストラリアのカウラという町に 1 年間留学しました。この町には第二次世界大戦中、日本兵の捕虜収容所があり、1944 年には日本兵の集団脱走事件で

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい
■富士見RC 毎週(金) 12:30～ 島田ビル1F

第2グループ各RC 例会日･会場一覧(順不同)
事務局 049-251-6596

多くの犠牲者が出ました。戦後、地元の方々が日本兵の墓地を整備したことなどをきっかけに、日本との交流が続いていました。町の人々やホストファミリー、ロータリアンの皆さんに温かく迎えていただいた経験は、私にとって忘れられない思い出です。このときの経験が、後にロータリー財団の奨学金を目指すきっかけになったのだと思います。

大学では法学部政治学科で国際政治を学び、貧困や難民問題に関心を持つようになりました。途上国支援を専門的に学びたいと考え、イギリスの大学院への留学を決意しました。しかし、両親からは、留学するなら自分で奨学金を得るようにと言われました。そこで、ロータリー財団の奨学金に応募し、2570 地区のご支援によって留学が実現しました。

留学先では開発学（途上国支援）を学び、学費や生活費を支援していただきました。さらに、ロータリーの奨学生は国際親善大使としての役割も担います。現地のロータリアンご夫妻には、空港への迎えから生活の準備、地域の案内まで、本当に親身になって支えていただきました。奨学金は単なる経済的な援助ではなく、人との出会いや異文化への理解を深める機会でもありました。帰国後はタンザニアの難民キャンプでボランティアを経験し、1995 年に読売新聞社へ入社しました。

新聞記者を志したのは、世界の経済格差をペンの力で何とかしたいという思いがあったからです。関心のある人だけが読む広報誌よりも、幅広い人々に情報を届けられる新聞に魅力を感じました。入社後は山梨県の甲府支局を経て社会部などで勤務し、事件や裁判、社会保障の問題などを取材してきました。その中で、貧困や差別など、日本の社会にも自分がそれまで知らなかった問題が数多くあることに気づきました。

特に印象深いのは、高齢者虐待をめぐる取材です。当時は高齢者虐待防止法がなく、介護に追い詰められた家族による事件が相次いでいました。当初、記事にすることに慎重な意見もありましたが、掲載後には読者から多くの反響が寄せられました。その後、連載や海外取材へと発展し、最終的には国会も動いて高齢者虐待防止法の制定にもつながりました。読者の声と報道の力によって社会を動かせることを実感した、貴重な経験でした。一方、若手記者時代に、障害者施設で起きた性虐待事件を不適切に「いたずら」と表現した見出しを、変えることができなかったという苦しい思い出もあります。被害者の立場に立ち、問題の本質を正しく伝えることの大切さを、今も自分への戒めとしています。

私が記者として取り組んできたのは、声なき声を拾い、紙面を通じて社会に訴えることです。新聞には、政治や経済、事件、文化、暮らしなど、幅広い情報が詰まっています。隣り合う記事を読むことで、普段は関心のなかった分野にも目が向き、世界が広がることが魅力です。すべての記事を読む必要はありません。見出しだけでも目を通し、毎日一つでも心に残る記事を見つけてもらえればと思います。

一方、新聞業界は厳しい状況にあります。読売新聞の発行部数も、私が入社した 1995 年の約 1,000 万部から、現在は 500 万部を下回るまでに減少しました。ネットで無料の情報が手軽に得られるようになり、紙の新聞を読む人が減っています。アメリカでは、地域の報道機関が衰退し、地域の出来事や行政を監視する目が届かなくなる「ニュース砂漠」が問題になっています。日本でも決して他人事ではありません。生成 AI やインターネット上の情報には誤りが含まれることもあり、関心のある情報ばかりに接することで、社会の分断が進むことも懸念しています。だからこそ、取材を重ね、正確で公平な情報を届けるジャーナリズムは、民主主義に欠かせないものだと考えています。

読売新聞は 2024 年に創刊 150 周年を迎えました。時代が変わっても、読者からの信頼を守ることが最も大切です。そのためには、守るべきものを守りながら、新しい課題に挑戦し続けなければなりません。速報性ではインターネットに及ばない面があっても、愚直な取材を積み重ね、深い分析や解説、調査報道を通じて、表に出ていない問題を明らかにすることが新聞の役割だと考えています。

現在、私は仕事の傍ら、地元の生活保護を受給している世帯の中学生に勉強を教えるボラ

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい
■新座RC　毎週(木) 12:30～　ベルセゾン

第2グループ各RC　例会日･会場一覧(順不同)
事務局 048-473-7041

ンティアにも取り組んでいます。貧困の連鎖から抜け出す力になりたいと思って始めた活動ですが、子どもたちから私自身も元気をもらっています。

私はロータリークラブの皆さんから、「ノブレス・オブリージュ」、すなわち恵まれた立場にある人が社会に責任を果たすという考え方を学びました。自分の力を独り占めせず、社会に還元し、特に若い世代を支援する皆さんの姿に、長年感銘を受けています。

「今だけ、金だけ、自分だけ」という考え方が広がる時代だからこそ、長期的な視点を持ち、他者や社会、未来に責任を果たすことが大切です。私もジャーナリストとして、地域のボランティアとして、そして一人の母親として、ロータリーの皆さんから学んだ奉仕の精神を受け継ぎ、広めていきたいと思います。それが、これまで支えてくださった皆さんへの恩返しであり、次の世代へ思いをつなぐ「恩送り」だと考えています。本日はありがとうございました。

（紙面の都合上、一部内容を編集のうえ掲載しております）

「その他活動報告」

2026 年 10 月 5 日に平成倶楽部で開催された地区大会記念チャリティーゴルフコンペに 7 名の会員が参加しました。

2026 年 10 月 14 日にオリムピックゴルフクラブにて、志木ロータリークラブ、志木市商工会青年部、（一社）朝霞青年会議所、（一社）中小企業家同友会むさし野支部の皆さまとともに地域交流ゴルフコンペが開催されました。